

## かんちゃんのお遍路さん (10)

泉州労山 管和彦

讃岐ノ国。日高氏祝いに駆けつける。ついに大窪寺で結願。

私は 2013 年 5/12～6/17、37 日間かけて四国 88 カ所 1200km を、一人で大半野宿しながら休まず歩いてきました。**33 日目** 76～80 番。登山道の東屋泊 **34 日目** 81～83 番。日高氏が祝いに駆けつけ「ホテルプリンス」泊 **35 日目** 84～87 番。「あずまや旅館」泊 **36 日目** 88 番大窪寺結願。「ホテルオーシャン」泊

**6/13-33 日目** 今日も 5 寺お参り。コインランドリー機械の中にパンツ取り忘れ、スーパーでパンツと半袖シャツ買う。汗臭い半袖 1 枚廃棄。ファミリーマート配達運転手からお茶のお接待頂く。山腹の東屋泊、熱帯夜で蚊がおりツェルト閉じて気が狂う程暑く網のツェルトが欲しいな。3600 円使う。**6/14-34 日目** 日高氏が結願直前の祝いで駆けつけるとの連絡があり、屋島手前の JR きたちょう駅前のホテルプリンスを電話予約。夕方までに到着すべく、お参りしながら炎天下を急ぐ。夕方、ホテルの 500m くらい手前で向こうから歩いてくる人影あり。先にホテルに到着した日高氏が満面の笑みをたたえ迎えにきてくれる。懐かしさと言うか嬉しさで抱擁。人間社会へ一気に引き込まれた感あり。山のようなビールや刺身や冷えたスイカなど大量に買い込んできてくれた。いつもの穏やかな笑顔の日高氏と久しぶりに浴びるほど飲んで食べて・・・“フツーの人間生活”の有り難さ・・・が身に沁みる。もし私なら屋島まで祝いに駆けつけたかと自問自答するが、答えはノー。有り難い友人を得た事にただただ感謝感謝。よい山岳会に身を寄せている事に幸せを感じる。翌朝の手筈は、私は歩かなければならないのでホテルで分かれて屋島寺へ向かい、日高氏は車で屋島山頂で落ち合う事にして、ぐっすり安眠する。9650 円使う。**6/15-35 日目** 日高氏が待つ山頂の屋島寺へあらん限りの速歩で登る。お参りをして、日高氏にお礼を述べ、互いに道中の息災を祈り、屋島寺境内で分かれる。直後から雨が降りだし、だんだんひどくなり、ついに土砂降りになる。雨宿りでうどん店に入り、お接待を受ける。87 番お参りを済ませたがひどい土砂降りので先へ進むのを諦め、門前の「あずまや旅館」泊とする。5340 円使う。**6/16-36 日目** いよいよ結願の日。直前の岩峰の女体山を越えて下山。すれ違うどのハイカーからも、結願直前の祝福と拍手を受けながら結願のお寺 88 番札所の大窪寺へ。お参りを済ませ結願証明を頂く。ヤッターと万歳でもするか涙でも流すかと思ったけど、誰一人騒ぐ人もなく全然感動しなくて、拍子抜けというかむなしさを感じる。結願した人と共に万歳でもすれば達成感がこみ上げたかもしれないが、実際は誰に見送られることも無く独りさみしく境内を去る。耐え難い空しさである。結局は、個人の心の問題であり、他人とは無関係の遍路だったと改めて思い知る。この後 1 番札所へお礼参りに徳島県まで 1 泊 2 日で戻らねばならない、落胆している暇は無い。古来からのルートである大坂峠越え道を選ぶ。一度人間社会に戻ると、もう野宿する気にはならず JR 讃岐相生駅近くの大坂峠口にあるビジネスホテルを予約する。ホテルが見当たらずコンビニで尋ねると、若い女子店員が眼前のラブホテルを指さし「あそこです」とニコリ。遍路がラブホへ出入りする姿を想像すると足が止まったが、意を決して「こんにちわ」。4600 円使う。

◎次号⑪は 88→1 番札所→大阪。高野山お礼参り。遍路を通じて感じた事などで、お話としては終わりです。次々号⑫は遍路を志す人のための装備などの解説で完結の予定です。